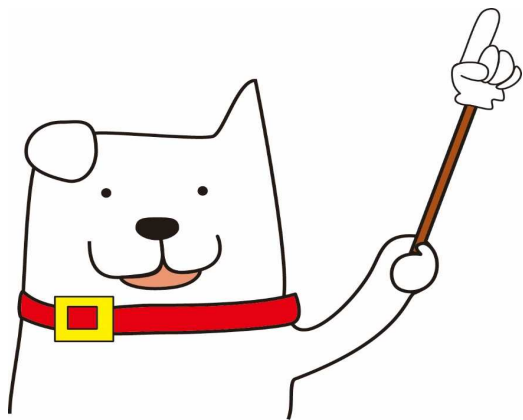


「学校と放課後等デイサービス 事業所の連携の推進」

～令和6年度大館市の実践から～



大館市教育委員会 学校教育課

臨床心理士 佐々木百合

令和5年度までの現状について

- 児童生徒の利用状況は、一人が複数の事業所を利用する、不登校傾向の児童生徒が早い時間から利用するなど様々である。
- 学校と放課後等デイサービス事業所が連携について、学校として取り組んでいるところは少なく、担任だけが窓口となり情報を共有するなど、限定的な連携になっている。
- 学校教職員の放課後等デイサービス事業所や福祉サービスについての理解が不足している。
- 就学前後において、教育委員会・学校と福祉課の定期的な情報共有の場が少ない。

主な取組 (学校)

◇ 既存の取り組み

- ・ 放課後等デイサービス事業所との下校時における日常的な情報交換
- ・ 放課後等デイサービス事業所への訪問・見学
- ・ 放課後等デイサービス事業所との情報交換会の設定

◇ 新たな取り組み

- ・ 放課後等デイサービス事業所へ行事予定の伝達
- ・ 個別の教育支援計画、個別の指導計画を活用した情報交換
- ・ 職員会議等における放課後等デイサービスについての周知
- ・ 市教委主催の教職員夏季研修会にて、市内の放課後等デイサービスの紹介と、利用と支援の実際について理解を深める講座への参加
- ・ トライアングル研修会への参加

主な取組（放課後等デイサービス事業所）

◇ 既存の取組

- ・ 学校との送迎時における日常的な情報交換
- ・ 学校における情報交換会への参加
- ・ 施設見学の受け入れ

◇ 新しい取組

- ・ 小学校の授業参観
- ・ 学校での個別ケース会議への参加
- ・ 担当者会議(保護者・教員・相談支援専門員・放課後等デイサービス事業者)の実施
- ・ 市教委主催の教職員夏季研修会への参加
- ・ トライアングル研修会への参加

主な取組（福祉関係機関）

◇ 既存の取組み

- ・ 他課で開催する特別支援に関するネットワーク会議への参加と情報提供
- ・ 個別ケースにおける窓口対応

◇ 新しい取組み

- ・ 学校での個別ケース会議への参加
- ・ 市教委主催の教職員夏季研修会へ講師として、放課後等デイサービスの利用と支援の実際・福祉機関の役割に関する講話
- ・ 各種会議等における学校と放課後等デイサービス事業所との連携についての周知
- ・ トライアングル研修会への参加

主な取組（市教委及び市として）

◇ 既存の取り組み

- ・ 個別に学校と放課後等デイサービス事業所へのつながりが必要なケースにおいて調整
- ・ 新規事業所には、教育長・教育委員・学校教育課（行政職）が訪問

◇ 新しい取り組み

- ・ 教職員夏季研修会(市教委主催)で放課後等デイサービス事業所への理解を深め講座を実施
- ・ トライアングル研修会への参加
- ・ 学校への意識づけとして、特別支援教育に係る帳簿点検でそろえるべき書類の項目に「関係機関との連携～放課後等デイサービスとの連携」を指示
- ・ 就学児童についてのケース会議を実施（子ども課・基幹相談支援センター・3事業所・市教委・特別支援教育コーディネーター）
- ・ 就学教育相談会へ福祉課にも参加を依頼
- ・ 大館市子ども・家族支援ネットワークへ福祉課が参加

実践紹介

大館市教職員夏季研修会

R6.7.31

「障害者通所支援事業による発達支援と学校・家庭との連携
～放課後等デイサービス事業所の利用と支援の実際～」

大館市福祉部福祉課障害福祉係 主査
大館市基幹相談センター 主任相談支援専門員

参加者38名

(市内全小・中学校、支援学校、保育施設、
放デイ事業所、児童相談者等)



参加者のアンケートから

(教職員)

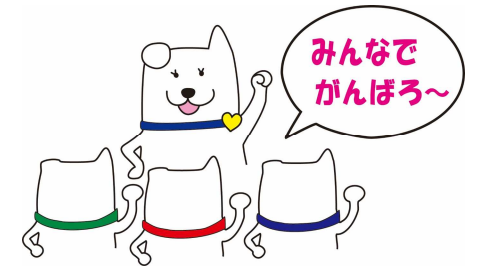
- (多くの教職員から)放デイについての理解が不足していた。
- 放デイ利用児の担任をしており、子どもから様子を聞いていたが、今回の研修でバラバラだった知識が整理できた。
- 支援を必要とする障害児へのスムーズな支援には、園や学校との放デイとの連携が今後ますます必要になると感じた。
- 現在悩んでいる子どもや保護者へのサポートをする一つの引き出しとして、理解し活用していきたい。
- 相談支援に役立てたい。職員への周知をしたい。

参加者アンケートから

(放課後等デイサービス事業所)

- 放デイからも連携に関してできることをしていきたいと改めて感じた。
- 学校の先生たちに、放デイのことを知ってもらい、切れ目のない支援ができればよいと思った。
- 今回学校の先生たちを対象に、放デイをテーマにして講座を組んでいただいたことで、放デイや相談支援について知っていただけの良い機会になったと思う。こちらも、これからもっと積極的に学校へアプローチをして、よりよい連携を深めていきたいと思います。またこういう機会があれば教えて貰いたい。

今後の課題



- 個別の支援計画を共有することは増えているが、生かすためのケース会議が必要と考えられる。
- 令和8年度から、大館市の特別支援に対応する諸会議の改変が検討されている。会議の運営に委員として出席されること検討されると良い。
- 顔の見える関係が増えつつあるが、定期的・継続的な情報共有の場が望まれる。
- 本人だけでなく、家庭への支援が必要なケースこそ、情報共有が必要となる。行政として橋渡しの支援が必要と考える。